

# インド 路上で暮らす子どもたちの銀行

中山 実生



【なかやま・みお】子どもの権利活動家。1977年、広島県生まれ。国際子どもの権利センター職員を経て、現在はインド・バンガロールを拠点に活動。著書に「内発的発展と教育」（共著）など。

「一日の終わりに手元  
に何も残らなかった。貯め  
よつたんで考えもしなかつ  
たよ。でもバルヒカス銀行  
のメンバーになってから  
は、稼いだお金を貯める  
ようになったんだ」。イ  
ンドの首都デリーの路上で  
屋台を開いて働く十歳のス  
マン君は誇らしげに言  
う。

銀行の運営にも子ども  
たちが参加している。例え  
ば、ある子どもがお金を  
預けたいと思えば、パン  
クマネジャーと呼ばれる子  
どもたちが学校へ通い、読み書きができる  
と預金額を申告して署名を  
する。マネジャーは、バイ

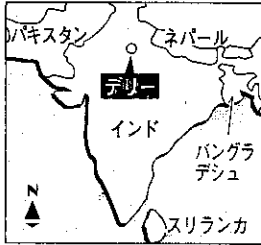
は六千人の子どもが利用し  
ているという。  
国際労働機関（ILO）  
が今年発表した世界の児童  
労働者数は二億二千八百万  
人で、二〇〇〇年の二億  
四千六百万人より11・3％  
減った。しかし、インド  
では逆に、一人から一億  
二千七百万人に増えてい  
る。グローバルセクション  
を要因とする急速な経済発  
展が国内の絶対的な貧富の  
格差の拡大に拍車をかけて  
いることが、その背景にあ  
る。

## 絶対的貧困脱出への一歩

路上で働き暮らす子ども  
たちの多くは、稼いだお金を  
を安全に手元にとっておく  
手段がないため、その日の  
うちに使いきってしまう。  
明日のことなど考えずべ  
もなく今日を生きていること

「バルヒカス銀行（子ども  
開発銀行）だ。「パタフ  
ライズ」というNGOが二  
〇〇一年にデリーで、子ど  
もたちと一緒に試行錯誤で  
始めた。

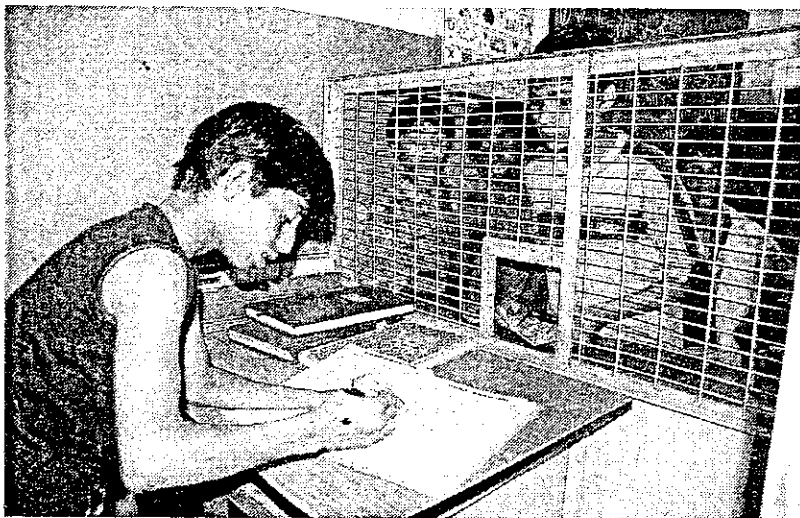
バルヒカス銀行は、路  
上で働き暮らす子どもの経  
済的な自立を支援するた  
め、お金を預かったり、貸



文化

世界の市場化に抗して

13



の基礎的なトレーニングも  
受けており、おとなと一緒に  
に銀行の会計にも携わって  
いる。

銀行を利用する子どもの  
中には、お金を貯めて両  
親のために家を建てた子ど  
ももいる。路上で生活を  
する子どもの多くは、道  
に落ちていくゴミくずを拾  
う仕事を主にしているが、  
銀行が貸し付けをするよう  
になってからは、資金を得  
て、カセットテープやCD、  
ハンカチなどを売る小  
店を始めるようになっ  
た。

貸し付けの審査をする委  
員会は、五名が四十九  
歳、四名が十三歳の計  
九人の委員で構成されて  
いる。貸し付けにあたっては、  
預金額が貸付額の10％以上  
なければならぬ、親や兄  
弟姉妹、親戚のためにお金  
を借りることができない、  
などの条件がある。また、  
麻薬や酒、タバコなどのビ  
ジネスのためには貸し付け

現在、デリーのバルヒカ  
ス銀行を利用している子ど  
もは千二百人。インド国内  
の他都市、スリランカ、ネ  
パール、パキスタン、バン  
グラーデシュにも既に銀行が  
設立され、南アジア全体で  
（毎週月曜日に掲載します）

バルヒカス銀行にお金を預  
ける子どもたち。記載する  
のはバンクマネジャーのア  
ミン君（2006年7月、  
インド・デリー市）

は六千人の子どもが利用し  
ているという。  
国際労働機関（ILO）  
が今年発表した世界の児童  
労働者数は二億二千八百万  
人で、二〇〇〇年の二億  
四千六百万人より11・3％  
減った。しかし、インド  
では逆に、一人から一億  
二千七百万人に増えてい  
る。グローバルセクション  
を要因とする急速な経済発  
展が国内の絶対的な貧富の  
格差の拡大に拍車をかけて  
いることが、その背景にあ  
る。